

# ナマステ



特定非営利活動法人  
自然文化誌研究会 会報誌

## 133 号

2018 年 9 月 10 日発行号

### この夏も多くの活動を開催することができました！

#### ■ 活動案内 ■

### **その1「冒険学校 まふゆのキャンプ」 12.22~24(2泊3日)**

毎年恒例の冒険学校「まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか？  
小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・アウトドア料理・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待ってます！

日 程：12月22日（土）～24日（月・祝）

場 所：小菅村のいつものキャンプ場

宿 泊：テント・ログハウス・野宿など

対 象：小学校3年生～中学校3年生

定 員：25名（先着順です）

参加費：会員¥24,000 非会員¥26,000

（奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などが含む）

申込み：ハガキ・もしくはE-mailに住所・

氏名・年齢（学年）・性別・電話番号を記入の上、

11月22日（土）までに事務局まで参加をお伝え

ください。





# 「第 13 期 こすげ冒険学校」報告

## 8.5~8.11(6泊7日)

開催中に台風の心配もありましたが、途中で解散することなく最後まで無事に開催することができました。参加者、スタッフの皆さん、6泊7日の冒険学校おつかれさまでした！！感想を送ってくれた参加者の皆さんありがとうございます！



吉田蒼楽さん（小学3年生）

8月5日から山梨県の小菅村というところでお父さんもお母さんいなくて、子どもと大学生とキャンプをしました。大きなブランコにのったり、缶ケリをしたり、川遊びをしたりしました。

ごはんもつくれたのでつくりました。夜ご飯が食べ終わったらナイトハイクに行ったり昆虫採集をしたり星空観察もしました。最初は心配だったけど、とーでも楽しかったです。また、来年も行きたいな！と思いました。とても、楽しい思い出になりました。

（こすげのキャンプでさわがニを見つけました。左手の大きなはさみがありませんでした。口からポコポコあわを出してました。エサはお米とソーセージでした、見つけてうれしかったです。

山田珠綺さん（小学4年）

（抜粋してます）

キャンプで楽しかったことランキング

- 1位 川下り（上流から）、川遊び
- 2位 白糸の滝、雄滝を見に行ったこと
- 3位 やきそば選手権（優勝したから！）

来年はお祭りに行きたいです！！

ごはん、おやつ（夜食）でおいしかったものランキング

- 1位 きょうりゅうの〇〇〇
- 2位 カレー
- 3位 そうめん

来年もおいしいごはんとおやつ（夜食）を作ってね！！

石井惇さん（小学6年）

僕は、2018年こすげ冒険学校で楽しかったこと、経験したことがあります。

楽しかったことは三つあります。一つ目は沢遊びです。去年も沢遊びをしました。今年は去年よりバケツを振る速さが速くなりました。なので水をかける事がスピーディーになりました。

二つ目は沢遊びでやったとび込みです去年は5回くらいしかとび込んでいなかったけど、今年は10回以上とび込みました。今年は雨で深く、高い所からとべたので楽しかったです。

三つ目は、キャップとばしです。今年は一ヶ所だけではなく、ゴルフ感覚でチーム戦をしました。とても楽しかったです。

経験したことは三つあります。一つ目は釘ナイフです。釘ナイフは今年からやることになりました。釘を火でやわらかくしてトンカチで潰してするどくして作りました。火傷等を負ってしまったけど良い経験になりました。

二つ目は竹細工です。竹細工は以前やったと思うけど、初めてやりました。石井家の名前を竹に彫刻刀でほってつくりました。

三つ目は鬼ごっこです。今年思うと、自然の中の鬼ごっこは気持ちいい、運動になると思えました。とても楽しかったです。



参加者のみなさまには、冒険学校写真のDVD-Rと、修了証を同封してお送りしています！！

## 『2018 年 冒険学校を終えて』

こすげ冒険学校村長 雫永法

今年の冒険学校も無事に終わることができました。

昨年は予想外の線状降水帯による豪雨があり避難をするという経験をしましたが、今年は台風の影響もほとんど無く子どもたちにとって安全で楽しいキャンプ生活となり、ほっとしています。

冒険学校に参加した子どもたちが何を得て、また実感して自分の生活するコミュニティに帰っていくのかについて考えてみました。

沢のせせらぎを耳にしつつ自然に囲まれた環境の中で、自分のしてみたいことに自由に挑戦するという 7 日間。普段の生活の中ではなかなかこういった環境に身を置くことは出来ません。

子どもたちをみていて毎年感じることは、彼らは冒険学校を通して自己解放の手段やコミュニケーション力を身につけていっているということです。小菅村の中にある自然環境を肌で感じながら、生活を共にすると自然に新たな仲間とのコミュニケーションが必要になってきます。また、衣食住についてのいろいろな知識や技術に否が応でも出会います。その一つひとつが生活に結びついているので楽しみながら自然と身につけていくことになります。

具体的に言えば、濡れたものの乾かし方、火の起こし方・維持の仕方、薪の作り方、沢での遊び方、寝心地のよい寝床の用意の仕方、雨のしのぎ方、刃物を含めた色々な道具の使い方、残飯を出さない食事の仕方…等々。これらの知識や技術に子どもたちが出会う時、そこには必ずスタッフや他の参加者がおり、何らかのコミュニケーションが介在しています。つまり、子どもたちが何かをしようとし

た時、自然な形で実に様々な人と人の関わりがそこに生まれるのです。冒険学校の期間を通して子どもたちは実に見事に自分たちの社会を形成していったと思います。そこには根っここの部分にこのコミュニケーション力が働いていると感じます。

今年は初参加の 3 年生が多く、例年よりもより緊張して冒険学校にのぞんだ年となりました。その年によって参加者の年齢別人数の偏りや、またスタッフの人数や経験値等を考慮してその年のプログラム内容を予想し様々な準備をしていますが、今年は初参加の 3 年生が多いということから小集団行動等の少し難易度が高いプログラムは実施しない判断をしました。しかし、今年経験を積んだ参加者が来年以降はさらに難易度の高いことに挑戦できるような素地となる経験をするには十分にできたのではないかと思います。

また、小学生高学年や中学生の参加者が高校生・大学生スタッフの働きを見て、いずれスタッフとして役割を果たせるようになりたいと宣言してくれたことには勇気づけられました。

忙しいスケジュールの中、手弁当で駆けつけてくれた学生の皆さんに感謝したいと思います。おそらく、本当に冒険学校での生活を彼らが共に楽しんでいたからこそ、その背中や雰囲気を感じとって次の世代である小・中学生が憧れを抱いたのだと考えています。

来年以降の冒険学校をはじめとするキャンプ活動がどのように展開していくか楽しみではありません。



## **「やまめキャンプ・いwanaキャンプ」報告 8.14~8.16(2泊3日)**

スタートは増水で川遊びができない川の状態でしたが、川が澄んでからは水温関係なく何度も何度も飛び込み続けていました。親子 3 組+2 名の総勢 12 人の方にご参加いただきました！



参加者の皆さまには、写真を CD-R を同封して送ります！！



## 『藤農便り』 第 14 号

### 宮本茶園 宮本 透（自然文化誌研究会）

今年の夏は梅雨明けが早く過酷な猛暑日が続いて熱中症になって体調を崩される方も多かったようですが、皆様はどのように過ごされましたか。私はバイト以外どこにも出かけず、佐野川にこもって畑仕事に専念しました。5 反の茶畑と 1 反の雑穀畑、全ての畑をていねいに管理することは思いのほか重労働、日没まで汗まみれになって草刈りシタ食を食べると趣味のアニメ鑑賞もできずに爆睡の繰り返しです。猛暑にくじけそうになりましたが、農協支所にある農業新聞で読む金足農業高校の甲子園での活躍に元気をもらいました。「横浜高校負けてしまって残念ね」とバイト先で言われた時、「申し訳ありません。元農業高校教員なので地元の横浜高校ではなく、金足農業高校を応援していました！」と即答しました。

#### ・佐野川茶PR活動

①3月16日篠原の里カフェで「茶農家とおしゃべりランチ」を企画していただきました。藤野茶業部員と地元や相模湖から約 10 名の参加者があり、足柄茶・静岡茶・知覧茶・高梨茶園の手揉み茶等の飲み比べや美味しいお茶の入れ方講座を行いました。温かなランチとお茶に合わせたスイーツ桃まんじゅうをいただきながら、茶栽培の苦労話や日常生活とお茶のかかわりなど楽しく情報交換しました。



「茶摘みや手揉み体験をしたい」という意見がきっかけになり茶摘み会が企画され、5月26日「和田の里みちくさの会」主催で12名の参加者が手揉み茶作りを体験されました。「茶農家とおしゃべりランチ」、消費者と茶農家をつなぐきっかけを作っ

ていただいた事深く感謝いたします。

②藤野茶業部では木村普及員の指導で荒茶の煎茶加工に取り組んでおり、6月13日大河原副部長と研修会に参加し製造工程を学びました。出来上がった茶業部煎茶は、6月22・23日に開催される「上河原ぼたるまつり」でお披露目することにしました。農協で「さのがわ新茶」ラベルを作成してもらい、大河原さん宅で袋詰め作業を行いました。袋に100g計量し脱酸素剤を入れてシーラーで密封しますが、数が多いので2日にわたる仕事になりました。佐野川茶の未来を語り合い大河原さんが農協で購入した足柄茶製品との飲み比べ等、その昔小金井祭探検部名物シシカバ屋台を思い出す楽しい時間を過ごさせていただきました。夜遅くまで長居してご家族に多大なご迷惑おかけした事、この紙面をお借りしてお詫びいたします。ぼたるまつり当日は梅雨空で雨模様でしたが、川辺に舞う蛍を鑑賞されたお客様に水出し冷茶を試飲していただき好評でした。茶業部で取り組む「茶産地の茶製品」、たくさんの方に知っていただきたいと思います。



③藤野図書館を考える会は「リレートークの会」を毎月開催し、藤野で活躍されている方の話を気楽に聞ける場を提供しています。純子さんから「雑穀街道とFAO世界農業遺産セミナー」で主宰の福田川さんを紹介され、リレートークスピーカーの依頼をいただきました。室内で私のつまらない話を聞いてもらうのではなく、上岩の茶畑・雑穀畑を案内して藤野茶業部や雑穀街道普及会の活動を紹介すると



いうことでお引き受けしました。

残暑厳しい8月11日石盾尾神社に集合、雑穀畑から茶畑の創業石碑までいろいろ説明しながら歩くと1時間以上かかります。



佐野川公民館に移動し、私が藤野に移住して茶栽培を始めるまでの経緯を30分ほど話させていただきました。質疑応答では旧藤野町の茶業取り組み・佐野川の茶畑風景が「日本の里100選」に選定された理由等、地元でもなかなか知りえない興味深い話題で盛り上がりました。先人たちが急斜面を開墾し苗木を植栽してから50年の歴史を刻む佐野川茶、その魅力を再認識することができました。四季折々豊かな自然の中で働ける場を与えてくださった方々に深く感謝し、さらなる精進を続けます。

#### ・夏の畑仕事

摘採時期の雨降りで苦労した一番茶の収穫が終わり、早い農家は5月下旬から製枝作業を開始します。昨秋の研修会で品評会上位入賞茶園を見学し、茶樹更新をしなければよい葉が収穫できない事を悟りました。木村普及員に相談し、数年かけて上岩の茶畑更新に取り組む計画を立てました。茶樹は毎年葉を収穫し製枝作業を行うとだんだん枝が細くなり、葉層が薄くなって収量が落ちてきます。更新は一番茶収穫後に行われ、養分が通りにくくなった細い枝を深く刈り取り、残った枝から新しい芽がでるようにします。木村普及員の指導で古葉が残らない程度まで太い枝を切り落としましたが、緑鮮やかな手前右から2列目が昨年の製枝講習会で更新した畝です。



管理作業で一番重要なのは製枝だと教えていただけていますが、一年でこれだけ違う製枝効果を自分の目で確認することができました。

6月15日茶園巡回製枝指導があり、農家ごとに機械刈りに適した製枝をどのように行うか助言を受けました。梅雨明け間近の時期、晴れ間を見つけては協力し合って製枝作業に取り組みました。製枝が終わると夏本番、猛暑の中で畑周辺の草刈りと茶樹を覆うツル草取りが続きます。8月上旬上岩で管理できなくなった茶畑の製枝作業を依頼され、茶業部有志で請け負いました。述べ4日間熱中症にならないよう早朝から午前中の中のみの作業でしたが、生い茂る雑草を取り除いて茶畑をよみがえらせることができました。



#### ・第40回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

神奈川県民の水がめになっている相模湖は1940年にダム建設が始まりました。日本のアジ



ア侵略を支える軍需工場の電力供給を主目的にし、捕虜にした中国軍兵士や強制連行した朝鮮の人々を酷使して建設が進められました。この事実を知ったのは特殊教育研究部の仲間たちと、都立八王子養護学校の総合学習に参加した学生時代でした。1980年代の八王子養護学校は修学旅行に広島を訪れ、生徒たちは日本のアジア侵略の歴史をていねいに勉強していました。八王子と戦争のかかわりを学ぶ中で、高尾山麓の浅川地下壕は大本営や戦闘機製造の中島飛行機工場を米軍攻撃から避難させるために数千人の朝鮮人労働者を相模湖ダム同様に酷使して建設した事を知りました。侵略戦争遂行のダム・地下壕建設で多数の中国・朝鮮の人々が殺された事実は、中学・高校の歴史授業で教わる事はありませんでしたから衝撃でした。

里カフェのおしゃべりランチに参加してください。橋本・中島夫妻は、相模湖畔でアミーユというカレー店を開いています。相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会実行委員会のまとめ役を長く務め、第40回追悼会実行委員に誘って下さいました。昨今日本のアジア侵略の加害歴史を学ばず南京大虐殺・朝鮮人少女を性奴隷にした軍隊慰安婦等日本軍の戦争犯罪を否定する人々が増え、改憲し再び日本を「戦争する国」にしようとする権力者が支配する社会に危機感を覚えていたので、委員に加えていただきました。1979年から続く追悼会では手造りのモニュメントを前に、中国大使館・韓国領事館・朝鮮総連はじめ各界代表が追悼の辞を述べて参加者が献花、地域の小中学校・朝鮮学校の子どもの合唱や舞踊が披露されます。毎年7月相模湖で開催される追悼会、アジア侵略の歴史を反省し日本が再び侵略戦争をしないために多くの人に参加してほしいと思います。



・ 雜穀栽培普及会活動

4月上野原市役所で開催された「雑穀街道とF A O世界農業遺産セミナー」の後、雑穀街道普及会藤野地区では種子提供の問い合わせがくるようになりました。今年から雑穀栽培に取り組む鎌沢のブライアンさんにキビやモロコシの種子を差し上げたところ、中古の耕耘機をいただきました。おとぎ話のわらしべ長者のようで、早速上岩雑穀畑の耕起に実力を発揮しています。茶の収穫が終わった5月下旬から植付け準備を始め、ハトムギ・モチキビ・モチアワを播種したのが6月17日でした。田村さんの茶畑製枝作業をした後、畝切りを手伝っていただいたので時間をかけずに播種することができました。津久井在来大豆22日・25日播種、7月4日モロコシ苗定植、5日木俣師からいただいた借金なし大豆播種と植付け作業を続けました。

昨年内郷の大豆栽培は雑草に負けてクズ豆しか収穫できなかったの、今年はおまめに除草・土寄せしています。キビは8月上旬に出穂し始め、お盆期間は裏山に入って防鳥ネット掛けの支柱に使う竹を切り続けました。14日から支柱を用意し始め、クイ打ちしてネットを掛け終えたのが25日でした。純子さんに話すと「あんたの仕事は人の3倍時間がかかるのだから！ だけど一人でやったのは偉い！」とけなされたのかほめられたのか判断が難しいお言葉をいただきました。



田村さんから借りした1反の雑穀畑は今年農地  
利用権設定をせず、6月に鳥獣害防護対策の補助金  
交付手続きをしたところ利用権未設定農地には補  
助金が交付されないことがわかりました。7月の農  
業委員会会議に間に合うよう急いで書類を作成し、  
8月から正式に利用権設定が認められました。雑  
穀・大豆がシカやイノシシのエサにならないよう、  
防護柵設置を準備しています。

藤野地区 自給農耕ゼミ雑穀栽培講習  
問い合わせ：宮本透 090-2205-8476 まで

## 「タイ環境学習キャンプ2018」報告

大窪青樹（初参加・山梨県大月市出身）

タイからの帰国後、「タイどうだったー？」とよく聞かれる。まあ当然の話題ではあるが、正直答えるのが難しい。なぜなら自分にとって刺激が多すぎて簡潔な説明ができるほど整理できていないからだ。だから「色々あって楽しかったよー！」としか答えられていない。『話すのが面倒なんじゃなくて話題が多すぎて話せないんだ…許しておくれ。』という悔いもあったが、タイでの出来事を書く良い機会を得られたので、今後の自分のためにもここに簡単に記録を残したいと思う。

|     | 活動場所      | 午前         | 午後        | 夜          |
|-----|-----------|------------|-----------|------------|
| 1日目 | バンコク      | 生誕祭の市場     | (移動)      | 会食         |
| 2日目 | バンコク→ダム湖  | ロータス       | (移動)      | ロンペー(水上家屋) |
| 3日目 | ダム湖       | ボートで散策     | クルンクライ    |            |
| 4日目 | ダム湖→バンライ  | カレン族訪問     | 養蜂講座      |            |
| 5日目 | バンライ      | ワークショップ    | ワークショップ   | タイマッサージ    |
| 6日目 | バンライ      | (休憩)       | プーワイ洞窟    | 宴          |
| 7日目 | バンライ→バンコク | 大学の猛禽類病院見学 | 会食        | ノージープレイス   |
| 8日目 | バンコク      | 水上市場       | チャトチャ週末市場 | 豊田勇造ライブ    |
| 9日目 | バンコク      | バンプー自然教育施設 | オールドマーケット | ドンムワン空港    |

タイでの飛行機含めの 10 日間の概要はこんな感じ。車での移動が長いためどれもざっくりとしたものになっている。あまりグダグダしないようにシンプルにふりかえっていきたいと思う。

### 【1 日目】

念願の初海外初日、主な出来事は午前中から昼過ぎまでタイのシリキット女王の生誕祭を開催している公園に行き、夕食にラダワンさんらと会食をした。

生誕祭の市場について。公園で若林さん夫妻(若林さんはタイ在住の日本人でタイ語と日本語の通訳の先生をしている。奥さんのエーさんはタイ人で日本語とのバイリンガル)と合流した。生誕祭では食べ物の市場から様々な昆虫の展示、研究報告や体験教室等、賑やかに盛大にやっていた。3 時間以上いたが全く飽きない。



▲生誕祭の市場。とにかく多種多様。

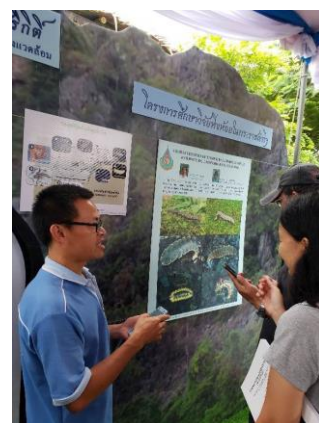
夕方からはラダワンさんらと会食に。場所は川のすぐそばにある「RIVER WINE」という店。川のそばというか床の下は川が流れている。ラダワンさんらと会話をするときは英語。ゴミさんとゴメさんも初対面の若い女性(あだ名をフランス)と日本のアニメの話で盛り上がるも自分の英会話力が乏しいことが悔やまれた。

### ▲ホテルの研究発表

### 【2 日目】

今日は移動日。まずはバンコクからバンライへと移動する。名前は似ているが文化圏が大きく変わる。それにあたって、午前中はロータスという大型ショッピングモールで各自の最終準備やワークショップの材料調達、これからの食糧(というよりはほぼビール)の買い出しを済ませる。

バンライのパンダキャンプで昼食を済ませた後は再び移動。オフロードを数時間走りついた先はシーナカリングダム湖。そしてボートでロンペーという





浮遊家屋を引っ張り停泊場所へ。今朝までのビジネスホテルから急にワイルドキャンプになる格差。今日から湖上生活。



▲ボートから撮影。今回の宿泊場所。家の裏はただのジャングル。

### 【3日目】

今日は一日中波に揺られながら過ごす。湖上での生活は基本的にまったりしている。午前中はモーターボートで湖上の仏教の島へ行く。あんまりわからないまま軽く散策。帰りは湖上の魚市場によってロンパーに帰宅。午後は同じくモーターボートで野生の水牛を探しつつクルンクライヘ。ここは世界遺産に登録されているトゥンヤン・フワイ・カーケン野生生物保護区につながっている場所だが、湖からの方向では残念ながら保護区の中に入ることはできなかった。しかし野生かどうかは怪しいが水牛は見れ、(無断で行けるところまで)クルンクライもちょっと入れた。野生を感じた。湖上はとても過ごしやすく、一日中快適。



▲水浴びでシャブーができてご満悦のゴメさん。環境については気にしない。

### 【4日目】

湖上生活終了。朝にモーターボートでロンパーを引っ張り、陸地へ。地に足がついた。

今日はだいたい移動。午前中は国境警察の学校へ行って、カレン村の方の話を聞く。そして午後はパンダキャンプへ移動。しかも数時間は走るオフロー

ドを今回は車一台で 9 人乗らなくてはならないという修行のような帰り道。夜はパンダキャンプのオーナー、シリポンさんのハチミツについて話しあう。



▲シリポンさんの自家製のハリナシバチの巣。日本にはいない種。

### 【5日目】

今日は一日中ワークショップの日。朝早くから子どもたちがパンダキャンプに続々集まる。メインはゴメさんがハチミツ、空気圧、ミカン等の科学実験を行う。アシスタントとして即興でなんか遊びをやれと言われたが、ちえのわ及び大学の蓄積を生かして実践できた。

子ども向けのワークショップは午前中のみ。昼食後はゴミさんによる大人向けのワークショップ。日本のハチミツについてスライドを交えて話していく。(なお、若林さん夫妻が通訳をしてくれるので、言語の壁はほとんどない。ありがたい。)

そして、ゴミさんの講演の後には、タイの養蜂の権威、ターンさんによる養蜂講座&ハチミツ取りの実演。

夜、念願のタイ式マッサージへ。個人的にはもうちょっと強めにやってほしかったが、それでも身体は軽くなった。さすが噂に聞くタイ式。

夕食後の雑談では、タイでタイムスリップ系のドラマが空前絶後の大流行らしい。あと、BNK(バンコク)48。「恋するフォーチュンクッキー」が今タイで有名だってよ。



▲子どもたちに「いろいろに」を教えてきた。日本語での掛け声に感動。

### 【6日目】

シリボンさんは朝からワークショップで大忙し。一方そのころチーム日本はすることなし。ワークショップに簡単に挨拶をした後、ゴミさんは睡眠、ゴメさんは洗濯、そして自分はエーさんから Wi-Fi を借りて各々午前中を過ごす。

午後は近くにあるというプーワイ洞窟に行った。コウモリがたくさんいて、鍾乳洞探検よりもコウモリ撮影会になった。よく観察すればコウモリも様々。複数種いたのでぶら下がり方、反応の仕方、飛び方等観察が面白い。その後、バンライの大きい寺を見たり、木曜だけ開いている市場を見たりしてパンダキャンプに戻る。



▲洞窟にいたコウモリ。撮り放題。

夜は宴。INCH ライブを彷彿とする。演奏者はバンライで有名なタイバンド(スヌカオレン)だったり、飛び入りの女性たちだったり、自分たちだったり。歌詞の意味がわからなくて音楽は世界共通。雨が降っても屋根があるところまで移動し、深夜になるまで宴は楽しく続いた。



▲宴の様子。わいわい賑やか。

## 【7日目】

パンダキャンプから再びバンコクに戻る。その途中でシリボンさんの息子(バン)が通うカセサート大学の見学をさせてもらう。見学地は大学内の猛禽

類リハビリテーション施設。レンジャーが治療の必要があると送られてきた猛禽類の治療とリハビリを行っていて、そこにはミミズク、ワシ、コンドル等様々な猛禽類がリハビリをしていた。話を聞いたたびにどんどん興味深くなっていく。

バンコクへの大移動の終着地はグランドビューホテル。二日目以来の帰還となった。若林さんらと次に会うのは 9 日目、そこまでは通訳なしの英語となる。そこでシリワットさんと待ち合わせをし、カフェ&会食へ。シリワットさんは王立研究所の副所長もやっていた環境教育の偉い方。会食はもちろん英語だが、近況報告だったり流行りの話だったり優雅な話をした。会食後は、シリワットさんの専属ドライバーにノイジープレイスまで送ってもらう。ノイジープレイスからはチナタッタさんとともに過ごす。ノイジープレイスではショー(主に歌)を見ながらビールを飲むという感じ。この店は自家製のビールらしく、とても飲みやすい。この店限りではゴミさんやゴメさんより飲んだ自信がある。(記憶は失ってないよ!) わいわい楽しんだ。



▲ノイジープレイス。楽しい雰囲気みんな上機嫌。

## 【8日目】

今日はチナタッタさんが一日つきっきりで面倒を見てくれる。午前中は水上マーケットへ。昔は交通の要となっていたらしいが、今では水の都バンコクの観光資源として存続しているらしい。ここまでタイの市場をたくさん見てきたつもりだが、まだまだ色々あるものだ。

午後はチャトチャック・ウィークエンド・マーケット。チャトチャ週末市場といったところか。巨大市場というか迷路市場というか、店が密集していて、道も曲がっていて、さらに分岐も複雑でとにかく一期一会で市場を物色。日本でもこういうのあったな



ーとしみじみ。

夜は豊田勇造のライブへ。パンダキャンプの宴から三日連続でタイの歌を聴きながらビールを飲む。豊田勇造は日本語の歌を歌うので、久しぶりに歌詞のわかる歌を聴いている。癖がなかなか強い歌手だが、心に残るものもある。おっちゃんたちも踊るくらいにはノリノリである。



▲豊田勇造のライブ。最後の曲では踊りながら店内を回るおっちゃんたち。楽しそうで何より。

#### 【9 日目】

今夜日本に帰国するため、今日がタイ最終日。午前中は若林さん夫妻が迎えに来てくれ、海の方へ。行先はバンブー自然教育施設で、軍が管理しているマングローブ林に入り、野鳥観察をする。みんな蚊が多くて悩まされたが、野生のカワセミやコウノトリ等々無事観察できた。

午後はオールドマーケットと仏塔を見にバンブリーへ。オールドマーケットはまあ確かに下町感ある。仏塔ではタイってやっぱり仏教国だなというのを感じさせられる。そういえばこの滞在期間中、どこに行っても必ずお参りしている人を見る。日本の宗教感って本当に適当だよなあ。

ホテルに戻って最後のミッション。市場へドリアンを買に行く。ドリアンを素手で触れる熟練のおっちゃんが目の前で切ってくれる。最終的にドリアンは匂いを全く気にせずに食べられるようになったが、果実の王様ってほどのものは感じないよなあというレベル。

ドリアン調達後、タイでの最後の晚餐を済ませ、空港へ。チナタッタさんから次に日本に行くときは雪が見たいということを聞きつつ…。タイとの別れ。



▲最後の晚餐。まるでタイでのこれまでの食事をふりかえるようなメニューだった。しみじみする。

#### 【10 日目】

日本時間 8 時、空港に到着。日本語に安心しながら成田空港を歩く。ゴミさんはドンムワン空港の出国時にドリアンを没収されちょっと不機嫌になっていたのがまだ続いていた。「アレは(ドリアンの入った)袋を単品で入れていたのがダメだったんですよ。ゴメさんみたいにごちゃごちゃ入れておけばよかったんですよ。フッフッフ。」とゴミさんのお言葉。

以上、ざっくりふりかえった。他にも感じたこと考えたこと学んだこと等小話はたくさんあるが、会話のネタにとっておくとしよう。以前このキャンプに参加した先輩は丸くなったと周りから言われているが、自分は何か変わっただろうか。現時点で自覚していることは特にない。初海外だったが、言語の壁は通訳してくれる人がいたり、共通言語で話したり、ジェスチャーやイラストで伝えたり、デジタルの力で他言語化したりと言語の壁を乗り越える方法はたくさんあった。

タイで一番感じたのは、科学技術も人間も食事も感情も教育も本質的な差は全くないこと。日本にはないようなことをタイでたくさん見て感じて楽しんできたが、装飾の違いはあっても核は日本と変わらない。「本物の空気で呼吸すること」、これが大学時代に何度も定義してきた自分にとっての環境教育の結論で、今回十二分に学んできた。

(完)

## 『INCH の楽しい仲間たち』 vol. 7 その 16

## 『冒険探検粉塵記』 第 16 話 ポンチャン最後の冒険』

駄作者 文福洞先斗

『ファイマンさん最後の冒険』（Leighton 1991）になぞらえて、ポンチャン最後の冒険について書いておきます。ちなみに、R.P.ファイマンさん（1918～1988）はアメリカの理論物理学者でノーベルプライザーです。趣味のバンド仲間と一緒にユーラシア大陸のおへそにあるチューバ自治共和国に行くことにして、悪戦苦闘の過程を記した冒険記がこの本です。チューバは、モンゴル人民共和国の北西に隣接してあります。あるいは日本人と一部同祖だったのかもしれませんが。残念ながら、ポンチャンはファイマンさんと同年 70 歳になろうとしており、趣味の冒険仲間もおらず、もう、チューバにキビを求めての学術探検旅行はできません。そこで、別の最後の冒険を思いつきました。

若い皆さんには怪訝な顔をされますが、ポンチャンの人生のかなりの部分は、指導教官阪本寧男老師からキビの起源と伝播の研究に誘導され、それで決まったのです。この人は、「自分はやっと消えゆく雑穀に間に合った男だ」と無責任にも嘯きました。つまり、ポンチャンは研究人生の最初から、消えゆく雑穀に間に合わなかった男だということになります。しかし、飛び込んだ以上は、必死で尾っぽくらいには掴まなくてはなりません。誰からも認知・評価されることのない研究課題、先行きの不明な迷宮に飛び込むことになりました。この課題は今となってはとても壮大なもので、才の乏しいポンチャンの短い人生では十分に解き明かせませんでした。第四紀になって人類と植物がどのように関わったかの歴史をたどることですから、内容的にはとても面白いです。

ポンチャンは無職ですが、でも毎日、百姓、売らない作家としての仕事は沢山あります。売れるような本は書きたくない、自分が書きたい本を書くことにしたのです。ささやかな研究成果を余生でもって 5 冊の本にして、ただし売れるような内容の本ではないので、印刷されることはないでしょうから、インターネット上で順次公開しています。

さて、そこでポンチャン最後の冒険は、唐突に聞こえるかもしれませんが、日本国憲法に、自分の食べ物は自分で得る生業原理を加えるように提案することです。かつて、環境教育を促進するために、環境教育推進法を提案して、超党派国会議員立法をしていただきました。世の中が環境課題にあまりに関心でなかったから提案したのですが、環境教育推進法ができて、さほどの普及啓発効果もなく、地域環境も地球環境も改善されず、残念に思っていました。その時に議員立法を提案したのは環境文明 21 の藤村コノエさんらとでした。この政策提言 NPO はその後も引き続いて日本国憲法に環境原則条項を加えるように調査研究を続けてきたのです。ポンチャンは最後の冒険として、もう一度お手伝いすることにしました。環境課題は解決に向かうどころか、一層厳しさを増しています。自分も、人類も、他人事として傍観している持ち時間がほとんどないです。楽しくも、美しい素のままの暮らしを未来に求めるのなら、この冒険には大きな意義があります。

ポンチャンの環境政策は高本文雄老師から実践で教わりました。彼は海軍主計士官としてシンガポールで敗戦を迎え、捕虜になりました。その後、大蔵次官、国鉄総裁などを経て、森とむらの会会長や本会・自然文化誌研究会の会長もしていただきました。30 年近く、親しく教えを受けましたので、ポンチャンは植物学者の境界を越えて、環境教育政策を考えるようになりました。ちなみに、父は敗戦直前の 3 カ月を呉の海軍に、祖父はシベリア出兵で陸軍に徴兵されました。幸いなことにポンチャンは敗戦後の平時に生きてきて徴兵はされてはいません。

ごく少数の人々の民間研究者の提案努力を除いて、当時の敗戦後政府や復活政党の提案は GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の日本民主化の意に添わず、日本国憲法はいわゆる GHQ の押し付け憲法と言われ続けてきました。しかし、70 余年もたてば、よほど馴染んできて、押しつけであっても合意したと同じような様



態になって、大方の無関心を得ているのだと思います。最近、西鋭夫さん（2018）の発掘された GHQ 憲法草案の原本を読んで、日本では隠蔽された当時の状況がアメリカ側の記録メモに基づいてやっとわかりました。

日本国憲法は主権在民や基本的人権をうたっているのですから、いつまでも押し付け憲法だという人々がいるのなら、なおさら明治初期の五日市憲法提案などのように、国民が十分に学び、話し合い、憲法の加筆修正や改訂をしたら良いです。とくに、現憲法に含まれていない環境原則に関しては喫緊の未来課題であるのですから、多くの方々に関心を持っていただき、一緒に学び、考えていただきたいと思います。

戦争は食料の奪い合いから始まります。20 世紀だけでも約 1 億人が早魃、戦争や失政にともない餓死してきました。急増する人口（2018 年 9 月 5 日現在約 75 億人）と食料問題は知性によって対応・解決すべきで、戦争によって制御すべきではありません。そうであるのなら、自分の食べ物は自分で得る生業原理は強く再確認され、広く合意される必要があります。何でも金で買えば済むのではなく、日々の暮らしを支える生業は楽しい人生を保障します。市民農園（クラインガルテン、ダーチャなど）を拡大し、家族の食料の一部でも面白く栽培するべきです（写真）。

ポンチャンも最後の冒険について次のシンポジウムでお話しします。日頃立ち入ることのない国会議員会館ですが、是非見学もかねて、お誘いあわせてご参加ください。

.....

## 環境文明 21 シンポジウム 憲法に環境(持続性)原則の導入を!!

### ～改憲論議は“9 条問題” だけではない!～

この夏の猛暑・豪雨・大気的不安定などが示すように、地球環境が危機的に悪化し、貧困・格差など社会の持続性が危ぶまれています。しかし、現状の日本国憲法では、「環境」あるいは「持続性」について、一言も触れられておらず、次世代の子どもたちに、安心・安全で健全な環境を残すことが困難な状況です。シンポジウムでは、家族・地域・国レベルでの食の安全保障、リニア問題などの観点から、憲法に環境・持続性原則を導入することの必要性について、皆さんと議論します。そして、今こそ、日本国憲法に環境・持続性原則の導入の必要性を訴えましょう。

日時：11 月 6 日（火） 受付 11 時開始 11 時 30 分 ～ 14 時 30 分

場所：衆議院第一議員会館 第一会議室（定員 50 名） 主催：NPO 法人環境文明 21

プログラム（予定）

（1）NPO 法人環境文明 21 の提案についての説明、加藤三郎さん（NPO 法人環境文明 21 顧問）

（2）話題提供「憲法に環境・持続性原則が導入されることで何が変わるか」

①家族・地域・国レベルの食料安全保障と環境、東京外国語大学 AA 研究所フェロー、木俣美樹男さん。

②リニア新幹線の問題点、慶応大学名誉教授、川村晃生さん。

③諸外国の憲法における「環境」の位置づけ、中央大学教授、石野耕也さん。

（3）全体討議、藤村コノエさん（NPO 法人環境文明 21 代表）

（2018-9-4）



小菅村のポンチャンのダーチャ（守屋秋子さんにお借りしている畑）、雑穀栽培見本園

## 『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8 その 4

## クリスマスとホグマニー (2)

佐伯 順弘 (岐阜県)

DAY3 (25DEC) ロンドン滞在

ロンドンのクリスマスゴーストタウン化を面白がって見に来たものの、逆に孤独感のカウンターパンチを食らったので、早々に散策を終え、よろよろとダウン寸前で The Generator に戻る。曇り空と小雨が心の中まで滲みてくる。



(St.Pancras 駅。いつもは多くの人々が・・・)

やっと帰還し、凍えた心を温めようとミディアムラテ 1.75GBP を飲む。日本文学的には啜ると書くところなのだが、ここは GB である。ロンドンである。啜る行為がマナーに反することくらい知っている。であるからして、決して啜ってはいない。凍えた心と身体にとって相対的に地獄のように熱いラテを注意深く、ゆっくりと摂取したのであった。某有名コーヒーショップとは比べ物にならないくらいにおいしい。

1300 ようやく、心もほぐれてきたところで、昼飯時であることに気づく。クリスマスランチを予約してあることも同時に思い出す。



(パッケージミールのクリスマスランチ)

ローストチキン、パイ、小エビのサラダ、ポテト、ペプシ。これが想定外に美味しく、心を満足させるものであったため、先ほどのダメージからあっさりと回復し、再び散策に出かけるのであった。しかし！ここでやっと気づく。今日は頼りの big tour bus は動いていないようだ。迂闊であった。48 時間有効だから、十分元が取れると思っていたのであるが、クリスマスはバスが止まってもおかしくはないのだ。どうやらかなり無駄な買い物をしたようだ。地下鉄も動いていないことは先ほど確認した。再び気落ちしつつ、それでも辺りを徘徊する。



(曇り空と動いていない観覧車)

歩き回って、Winter Wonderland という移動式と思われる遊園地のようなところに出くわす。稼働している様子もないが、やっとここでちらほらと人が歩いているのを確認する。出歩く人が少ないというだけで、完全に一人も外出していないわけがない。それにしても、ロンドンの冬は見事な曇り空である。



(街の様々なところにクリスマスの飾りが。)



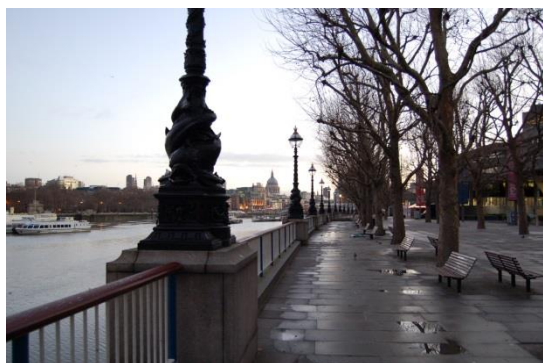
夕方から多くの人々を見かけた。せっかくのクリスマスイルミネーションを見ないのはもったいないだろう。17 時頃宿に戻る。体より心が疲れたので、早々にクリスマスディナーをいただいて寝る。

#### DAY4 (26DEC) ロンドン滞在

0530 起床。シャワーを浴び、身支度。

0630 行動開始。雨は降っていない。今日はクリスマスの翌日のロンドンを調査するために一日を使う。この日はボクシング・デーと呼ばれているらしい。当然のことながら格闘技のボクシングではない。教会が貧しい人のために寄付を募ったクリスマスプレゼントの箱を開ける日だったからだそうだ。旅をすると賢くなるものだ。さて、この日バスは普通に動いている。ロンドンのバスは便利で快適だ。まず臭くない。そして混んでない。さらに本数が多い。

早朝のテムズ川沿いを歩く。人が少ない。穏やかな曇り空。気分がいい。



(明けていくロンドン。濡れた歩道もいい。)

朝から夕方まで歩き回った。途中、某有名コーヒーショップに名誉挽回のチャンスを与えてやろうと、性懲りもなくラテに挑戦するが、まずい。もうこれは確定である。ロンドンのこの特定のコーヒーショップのラテはこういう味なのだ。もうわかった。他にもいいコーヒーショップはあるのだから、無理してこの店に行くことはない。予定外の結論が出たところで、クリスマスミールパッケージの最後の 1 食、ボクシングデーディナーを食べる。ローストビーフかな？うまい。鮭とブロッコリーのサラダ。うまい。歯ごたえのあるプディングいまいち。



(プディングは別として他はうまい。)

#### DAY5 (27DEC) エジンバラへ移動

0530 起床。身支度。1535 のフライトでエジンバラに行くのだが、そこまでの段取りを全く立てていなかったで、カフェで計画を立てる。

完璧かつ適当な計画を立てたので、部屋に戻り、パッキングをし、少し早いが空港へ向かう。ロンドンの空港はヒースローだけではなく、いくつもあるの、乗継などは要注意である。今回はスタンステッド空港を使う。地下鉄で空港までのバスが出ている駅まで行くと、幸い、バスに乗り込んですぐの出発だった。ふと見ると、近くの席に天使のように美しい女の子たちが座っているのに気づく。神々しいほどの美しさに圧倒されたが、ガン見しているのも失礼なので、気にしつつも見ないふりをしていたら、あっという間に空港についてしまった。わずかに聞こえてきた言葉から彼女たちがフランス人だとわかった。フランス語また勉強しなおしだなと小さく誓った。



(夕方のフライト。到着する頃は夜だ。)

チェックインした後、BK（バーガーキング）で腹を見たし、セキュリティチェックを通過して、フライトを待つ。フライト時間は約 1 時間半。1655 エジンバラ着。しかし、日はもう暮れて若干心細い感じになっていたが、そういうときこそ、勘は冴えわたる。なんとなく向かった先に市外へ向かうバス乗り場があった。Waverley という駅で降りるとそこが町の中心部だった。



（絶叫マシンを楽しんでいる人もいた。）

なぜか街の中心部に絶叫マシーンなどが置いてあり、派手に稼働していた。どそれらを横目に、頭の中に入れた地図を呼び出しながら今夜の宿への道を辿る。途中、なかなか味わいのある建物を見かけたが鑑賞している余裕などなく、宿への道を急いだ。見知らぬ土地に夜、到着するのはよろしくない。初めて冒険探検部で中国に行ったときのことを思い出す。もう日が暮れているのに、バスでとんでもなく郊外の宿に行く羽目になり、どんどん街の明かりから遠ざかり、街灯さえもないところへ向かう時の心細さはトラウマレベルの印象を残してくれた。そういうわけで、暗くなってから宿を搜索するのはできれば避けたい。

そんなことを考えているうちに、あっさり目的のエジンバラセントラルユースホステルに到着した。予想以上にきれいで快適なユースだ。

1830 チェックイン 77.9GBP/ 3 days  
カフェも広いし、アラン島産のビールも置いてある。スタッフも気さくで、気分がいい。エジンバラの宿一押し認定である。しかし、エジンバラではこの宿にずっと滞在するわけではない。ホグマニーの関係で混んでいて、3日間しかキープできなかったのである。仕方なく、3日後には他の宿に移ることになる。



（ユースではあるが、全く文句のない快適さ。）

宿が決まれば、途端に元気になる。ユースで夕食を済ませ、街の探索に出かける。やはり、今はお祭り状態で屋台も多くでている。そうなのだ。これから、このエジンバラでは「エジンバラホグマニー」という年越し行事がおこなわれるのである。一般にヨーロッパではクリスマスに比べて年越しは特にイベントはないのだが、このエジンバラのホグマニーという行事はなかなか大きなイベントであるようだ。実はこの行事の一環であるストリートライブのチケットは既に入手してある。とにかく明日から街中を探索して回ることにする。その夜は、Mulled wine なるものを飲んでみた。日本で言えばホットワインである。

#### DAY6（28DEC）エジンバラ滞在

0920 あまりにも快適なベッドだったので、つい二度寝した。宿泊者は一人だけだったので、警戒心が薄れていたのだろう。朝食をとり探索へ。



1230 ツアーバスに乗り、市内の概要をつかむ。本当にこのツアーバスは便利である。観光地を網羅したうえで、乗り降り自由ときている。

1400 エジンバラ城見学。やはり、日本の城



とは堅牢さが違う。城内のひんやり感が城を実感させる。中世の鎧を着た人たちのアトラクションが楽しかった。2時間以上楽しんで移動。

#### 1700 Scotch Whisky Experience

楽しみにしていたウィスキー博物館を訪れる。作り方を学ぶライドあり、テイスティングあり、数えきれないほどの展示あり、バーありと、ウィスキー好きにはたまらない施設だった。



(両サイドにこのような棚がある展示室)  
屋台のアンガスビーフバーガーで夕食。

#### DAY7 (29DEC) エジンバラ滞在

0530 起床。身支度をして、朝飯前の探索に出かける。1時間ほどして宿に戻り、朝食。すぐまた市内探索に出る。ツアーバスのチケットがまだ有効だったので活用する。ダイナミックアースという自然科学館に行く。大変興味深い場所で、地球の歴史などを学ぶ展示がよかった。



(Dynamic earth 外観も特徴的。)

1340 フランケンシュタインというパブで昼食。F&C、エールビールで 13GBP。

1425 National museum of Scotland



(館内のほんの一部。)



(自然科学系の展示も盛りだくさん。)

歴史あり、自然科学ありの大変興味深く快適な施設。展示物が多いのだが、建物が大きいこととセンスの良いディスプレイによりとても見やすくなっている。数日通って、じっくり見るべきものであるが、3時間くらいでどんどん見てしまった。もったいないことをしたかもしれない。こういう時である、勉強しなきゃなあと思うのは。テストのためでも何でもなく、ただ純粋に好奇心を満足させるための勉強。しているつもりだけど、学ぶことが多すぎる。

まだ 12 月 29 日である。これから、エジンバラホグマニーのメインイベントに入っていくのだが、Dynamic earth といい、National museum of Scotland といい、エジンバラは理科系の心をくすぐる見どころ満載の街だ。それだけではない。Scotch Whisky Experience も忘れてはいけな。もちろん、数々のパブも。次回はホグマニーの始まりを告げる松明行列への参加、年越しライブなどの話である。

(つづく)

## 『INCH の楽しい仲間たち』 vol.9 その 3

## 世界の森林減少とその課題を解く (3)

## ～フィールドワークから考えるインドヒマラヤの魅力～

長濱和代 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科 博士課程)  
(10 月から: 目白大学 客員研究員・非常勤講師 東京成徳大学 非常勤講師)

チャレンジ 5 回目にして (今までに不採択が 4 回) 大学研究科から海外渡航奨励金を得ることができたので、9 月上旬からインドへ渡航する準備をしています。今回の目的は 2 つあり、1 つ目は 2 週間の滞在中に博士研究のプレゼン会をして大学での自分の研究をアピールし、研究者との親交を深めてネットワークを構築するためです。2 つ目には、私のインド渡航 (今回はプレゼン会ですが、いつもは研究調査) に興味を持っている方々がいて、インド研究&フィールドワークに関するツアーを開拓するためです。

ツアーに関して、初インドの方には「私のインドツアーは過酷ですよ。」と最初に言い置きをしますが、それでも同行されたい方には、航空券と宿を手配しています。仲間たちには「私たちも長期休業中でなければ、そのフィールドワークと一緒にいきたい!」と予想外にも賛同してくださる方もいます。世界中の調査地へ、研究ボランティアを派遣している国際環境 NGO アースウォッチのような組織があり (ボランティアは自らお金を払って研究ツアーに参加。最近のアースウォッチの国内調査ツアーは、公開後すぐに満員御礼の状態とのこと。)、他人のフィールドワークは自分に責任が問われないので、楽しく過ごすことができるのかもしれない) \*1。

前置きが長くなりました。今回はインドヒマラヤの魅力について、書き尽くすことができなかったもので、その続きを書きます。

## 1. 森の生活にかんする伝統知

私は、森の資源が身近な生活にどのように役立っているかを地域の人たちから聞き取りしてきました。薪炭のような木材や飼料 (家畜の餌) だけでなく、歯磨きの代わりにする草、たばことして吸える葉、子どもが悪さをしたときにお仕置きをするための触ると痛い草など、身近にある森から採取した草葉が生活に活用されています。例えばニームという、日本でも知られるようになった樹木は薬効の特性があり、その葉、実、樹皮が伝統的治療薬として使われています。心臓病や高血圧だけでなく、解熱、鎮痛効果があり、関節炎やリュウマチにも効果があります。さらに癌や潰瘍、口内炎などにも効くそうで、葉の部分が錠剤となり国内でも市販されています。最近は歯磨き粉やせっけん、フェイスクリームも見つけることができるようになりました。このように薬効がある樹木や草本類は、地域だけでなく外部から (海外も含む) も注目されています。今世紀に入ってから「バイオパイラシー: グローバル化による生命と文化の略奪」(ヴァンダナ・シバ 2002) で報告されているように、先進国の資本により、古くから伝わる薬草などの伝統知識が利用され、医薬品や食品開発を通じて途上国の利益が独占されるという事態まで起きるようになりました。



ニームの葉と実

デリー空港でも買える  
ニームの錠剤



## 2. 地域の人々の魅力

民族的には多様で、インド・アーリア系（コーカソイドと言われる北部に多い白人人種）、ドラヴィタ人と言われるモンゴロイド（中部から南部に多い黄色人種）、タミル人と言われるオーストラロイド系（南部に多い肌の色が黒い南方人種）、そして少数民族はさらに細分化されます。私の訪れる東北部ではアーリア系が多く、日本人と比較すると顔頭が小さく目が大きくて、とてもキュートに見えます。一緒に写真を撮ると、私の顔の大きさが 2 倍近くに見えるので、最近の自分は、彼女たちよりも少し下がつて写真に写るようにしています。女性は、20～30 代で未婚の時は大概スリムな体型をしていますが、結婚して子どもを出産するとふくよかな体型になる場合が多く、幸福の象徴としてもこのような体型がやせ型よりも好ましいとされているようです。

またこちらから道を尋ねたりなどの質問をすると、丁寧に答えて下さるインド人は多く、気持ちが通じ合うことが多々あり、日本人とも親和性が高いと思われます。初めてのインド旅では、朝の散歩中に道に迷って近くのご婦人に道を尋ねたところ、英語が通じなくてご主人が現れ、さらに小学生の息子が呼ばれて通訳をしてくれて、話が盛り上がって、朝ごはん自宅に招待いただきました。（その息子も昨年から大学生となり、私をオートバイに乗せて自宅まで送迎してくれるほどに成長しました。）こうした親和性は、東洋的気質の共通性があるのか、宗教的な考え方によるのか等と考え、ヒンドゥー教と仏教的な思想は共通点があるように思われますが、この仮説は検証が必要でしょう。



D村の女性たちと（2014年、左から2人目が筆者）

しかしながら、お金儲けのために、向こうから声をかけてくださるインド人が少なからず存在するのも確かです。インドを訪れる時、とりわけ大都市中心部での積極的な声かけには、十分にお気をつけください。

### 【私が魅力される女性たち】

森に行くと、女性のたくましさ仕事ぶりにはいつも感動を覚えます。彼女らは朝早く（朝日が出た後）起きて、すぐに家畜小屋から子どものように可愛がっている牛や山羊たちを外へ出して飼料を与えると、掃除をして 3 度の食事を作ります。畑仕事の他に、朝晩の飼料の収集、近くの泉へ飲料水の水くみ、薪の収集など、晩まで仕事が続きます。またわずかな休息時には、自分がチャイを飲む時に居候の私の分まで作ってくれる等、目配りと気配りはすばらしいと思います。

道路の補修の時（前回のコラムの写真を参照）は、土でできた道に石を敷いてコンクリートで固め、道の整備をするのに、男性ではなく女性たちが多く賑やかに集まっていたので、「なぜこうした力仕事に男性が取り組まないのかしら？」と聞けば、「女性は何でもできて有能だから」と冗談を交えて答えてくれました。ヒマラヤ山麓の多くの世帯では、男性が都市や海外へ働きに出ている場合が多く、政府からお金がもらえる村落活動は、家にいる女性が参加するケースも多いようです。

## 3. 現地での食べ物

インドというカレーを思いうかべる読者が多いと思います。たしかに毎日、自分は滞在中に毎日カレーを食べていますが、実に様々なカレーがあります。

誌面がこれで尽きてしまったので、次回はフィールドワークを通じた現地での食事の楽しみ方から、続きを書いていきたいと思います。

## ○ 今後の活動予定のお知らせ (2018 年 秋～2018 年冬)

12/22-24 冒険学校『まふゆのキャンプ』 @小菅村 2泊3日

※ ログハウスづくりもいよいよ終盤です。第2・4週末を中心に作業を進めています。興味ある方は、メーリングリストに登録できますので、事務局までご一報ください！！

※ 2019 年度の通常総会は、2～3 月に開催予定です (年間スケジュールもその際に決定します)。

## ○ 事務局より

●「小菅村の夏は涼しくクーラーのある家はほとんどないのですが、我が家はお留守番する猫3匹のためにクーラーの導入を本気で考えています。家猫なので、外に出さないように夏場に窓を締め切ると小菅でも暑い・・・クロ」

## ○ 事務局の麗しき日々

- ・おこじはバクチャーを克服したのでスピーチが上手になったもよう。
- ・めぐちゃんは足指が折れていたのがブーケトスが下手だったもよう。
- ・タイから帰国したせいじゅは開眼し、少し尖ったもよう。
- ・まーしーは鶏ガラなので風呂でも良いダシが出ているもよう。
- ・そんなまーしーも10月から転職するもよう。
- ・土居ちゃんも転職して山小屋で働いているもよう。
- ・風馬は新潟暮らしを継続。皓太はブーになるもよう。
- ・にっしーは若くして准教授になるもよう、すごいぜ！
- ・みなえちゃんは樹木医の講演で韓国を訪れたもよう。
- ・翔くんは今年も小永田神楽で舞ったもよう。
- ・はるちゃんがちょっとイイ車を買ってブイブイ走っているもよう。
- ・大ちゃんも大きな車を入手して小金井をブイブイ走っているもよう。
- ・千翔ちゃんも運転免許を取って運転して、お墓参りに行ったもよう。
- ・こんな下世話な情報を寄せてくれた皆さん、ありがとうございます。

## ○ 会員の皆様へサービスのお知らせ

神奈川県相模原市藤野町にある『藤野倶楽部』は今年も INCH 賛助会員です。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を10%割引いたします。アクセスは藤野倶楽部のHPをご覧ください！！

## ○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30年以上にわたって活動を続けています。2004年からNPOとして再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座 (のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下8つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額 (1～12 月) です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員 (個人・団体)：10,000 円

家族会員：6,000 円 特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

雑穀街道特別会員 (小菅特別から変更)：1 口 1,000 円から

成合基金 (冒険探検基金)：「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 133 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

&lt;発行日&gt;2018 年 9 月 10 日

&lt;編集&gt;自然文化誌研究会 事務局

&lt;発行&gt;特定非営利活動法人

**自然文化誌研究会**

The Institute of Natural and Cultural History

&lt;事務局&gt;〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328 (事務局黒澤)

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P：http://www2.plala.or.jp/npo-inch/

次回「ナマステ 134 号」は、12 月下旬の発行を予定しています。お楽しみに！！